

# 中学校第3学年 音楽科学習指導案

日時 平成16年9月10日(金)5校時  
生徒 北上市立和賀東中学校 3年A組  
男子17名 女子15名 計32名  
指導者 教諭 柿沢 香織

## 1 題材名 合唱表現の深まり ～合唱表現の工夫～

### 2 題材について

#### (1) 教材観

本題材は、学習指導要領【第3学年】2 内容、A 表現のア「歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい歌唱表現を工夫すること」 エ「声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱や合奏をすること キ「音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との関わり合い、形式などの働きを理解して表現を工夫すること」 ク「速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解して表現を工夫すること」を中心に学習を進めるものである。

合唱コンクール課題曲については和声の美しさ、歌詞の内容、時代的背景、生徒の精神的発達等を考慮しその年の生徒にあった楽曲を選曲している。今年度の3学年課題曲「はじまり」はそれぞれの声部の役割がはっきりとしているとともに歌詞と強弱、速度等の表現要素による曲想の変化がわかりやすい。また、和声を含む音と音との関わり合いという一つの構成要素の働きを他の諸要素の働きと関連づけて理解させやすい曲である。そして歌詞の内容を自己のイメージや生活と関わらせながら表現できる素晴らしい楽曲である。

#### (2) 生徒観

3年A組は陽気で明るく幼さの残る男子と、大人びた女子との個性豊かな学級である。学習規律が定着できていない面もあるが、教師の働きかけに対する生徒の反応は活発で、授業は朗らかな雰囲気で行われている。生徒はこれまで合唱などを通し、皆で音楽を作り上げていく喜びや楽しさを体験してきた。「Omnibus Star 光年の旅」では声部の役割を生かしながら、全体の響きに調和させて表現の工夫をすることを学習してきた。また、「消えた8月」では歌詞の内容を味わうと共に、速度や強弱の働きによる曲想の変化を理解しながら表現の工夫をすることを学習してきた。その結果、歌詞の意味を考えながら声部の役割を意識しつつ、よく響く美しい歌声で表現しようとする生徒が少しずつ増えている。しかし、技能や思考を伴う題材において個別の支援を必要とする生徒、全く参加できない場面も黙見もいる。また、歌詞の内容や声部の役割を理解はしているが、それが音楽の諸要素とどう結びついているのか理解したり、感性的側面と関わらせてイメージを豊かにしたりしながら表現を工夫するまでには至っていない。

#### (3) 指導観

本題材では、それぞれの声部の役割をはっきりさせると共に歌詞と強弱、速度等の表現要素による曲想の変化に気づかせたい。また、和声を含む音と音との関わり合いという一つの構成要素の働きを他の諸要素の働きと関連づけて理解させていく学習を行いたい。例えば、「はじまり」はテンポの変化はそれほど多くないがそのかわりフォルテが多い。同じフォルテでも音色を変えたり、メゾピアノやピアノでも印象的になおかつ主張のある芯のある声で歌えたりするようになど発声はもちろんのこと、音色・和声・リズム・旋律などの働きを理解しながら音楽の雰囲気、美しさ、豊かさ等と言った感性的側面と関わらせてイメージを豊かにして表現する能力を伸ばしたい。

また最後の合唱コンクールということで仲間との学び合いを通し、楽しみながらも美しく響きあった時の喜び等の感動場面を経験させることで、一人一人が音楽の力を高めていけるような授業にしたい。そして、そのような活動を通し、様々な音楽を進んで味わおうとする態度やその曲なりの魅力を感じ取る力を育て、一人一人の音楽観の拡大と様々な表現の技能の向上を図りたい。

### 3 題材の目標

- (1) 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化に関心を持ち，意欲的に表現活動に取り組む。
- (2) 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化を感じ取り，イメージや考えを持って表現の工夫をする。
- (3) 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化を生かして表現をする技能を身につける。

### 4 教材

- ・ 工藤直子作詞 木下牧子作曲 「はじまり」(3学年課題曲)
- ・ 生徒達が任意に選択した混声合唱曲1曲(各クラス自由曲)

### 5 題材の評価規準と学習活動における具体的評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点3 表現の技能
題材の評価規準	・ 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化に関心を持ち，意欲的に表現活動に取り組んでいる。	・ 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化を感じ取り，イメージや考えを持って表現の工夫をしている。	・ 歌詞の内容，声部の役割，構成要素の働き，表現要素による曲想の変化を生かして合唱表現している。
学習活動における具体的評価規準	<p>歌詞の内容や曲想に関心を持ち表現することに意欲的である。</p> <p>声部の特徴と役割に関心を持ち表現することに意欲的である。</p> <p>構成要素(音色，リズム，旋律，和声を含む音と音の関わり合い，形式)に関心をもち，表現することに意欲的である。</p> <p>表現要素(速度，強弱など)による曲想の変化に関心を持ち，表現することに意欲的である。</p>	<p>歌詞の内容による曲想の変化を感じ取り，イメージや考えを持って表現の工夫をしている。</p> <p>声部の特徴と役割を生かすことによる曲想の変化を感じ取って，イメージや考えを持って表現の工夫をしている。</p> <p>構成要素(音色，リズム，旋律，和声を含む音と音の関わり合い，形式)の働きによる曲想の変化を感じ取って，イメージや考えを持って表現の工夫をしている。</p> <p>表現要素(速度，強弱など)による曲想の変化を感じ取って，イメージや考えを持って表現の工夫をしている。</p>	<p>歌詞の内容による曲想の変化を生かして合唱表現している。</p> <p>声部の特徴と役割による曲想の変化を生かして合唱表現している。</p> <p>構成要素(音色，リズム，旋律，和声を含む音と音の関わり合い，形式)による曲想の変化を生かして合唱表現している。</p> <p>表現要素(速度，強弱など)による曲想の変化を生かして合唱表現をしている。</p>

### 6 指導と評価の計画(6時間)

時間	ねらい・学習活動	具体的評価規準との関連	評価方法等
1	パート練習や合同練習を通して，旋律・声部の特徴と役割を生かした表現の工夫をする。 ・ 旋律の特徴や声部の役割を意識して自分のパートを歌う。	観点1 - 観点2 - 観点3 -	観察法
2	パート練習や合同練習を通して，歌詞の内容による曲想の変化を感じ取って，イメージや考えを持って表現の工夫をする。 ・ 歌詞の内容による曲想の変化を感じ取りながら，歌う。	観点1 - 観点2 - 観点3 -	観察法 生徒の発言内容 演奏発表 ・ パート練習の様子，練習内容と演奏内容による確認

3 (本時) ・ 4	構成要素(音色,リズム,旋律,和声を含む音と音の関わり合い,形式)の働きによる曲想の変化を感じ取って,イメージや考えを持って表現の工夫をする。 ・構成要素の働きによる曲想の変化を感じ取って,イメージや考えを持って表現する。 ・音楽の雰囲気,美しさ,豊かさといった感性的側面を感じながら表現を工夫する。	観点1 - (本時) 観点2 - (＼) 観点3 - (＼)	観察法 生徒の発言内容 演奏発表 ・練習の様子,練習内容と演奏内容による確認
	表現要素(速度,強弱など)による曲想の変化を感じ取って,イメージや考えを持って表現の工夫をする。 ・自己のイメージや生活と関わらせながら,心情や情景を想像しながら表現を工夫する。	観点1 - 観点2 - 観点3 -	観察法 生徒の発言内容 演奏発表 ・練習の様子,練習内容と演奏内容による確認
5 ・ 6	音楽の諸要素の働きを感じ取り,理解しながら表現を工夫する。 ・全体で音楽表現の工夫を考え,合唱する。	観点1 - 観点2 - 観点3 -	観察法 生徒の発言内容 演奏発表

## 7 本時の指導

### (1) 目標

- ・和声を含む音と音の関わり合いによる曲想の変化を,雰囲気,美しさといった感性的側面と関連させながら感じ取ることに関心を持ち,合唱表現に意欲的に取り組む。
- ・和声を含む音と音の関わり合いによる曲想の変化を,雰囲気,美しさといった感性的側面と関連させながら感じ取り,イメージや考えをもって合唱表現の工夫をする。
- ・和声を含む音と音の関わり合いによる曲想の変化を,雰囲気,美しさといった感性的側面と関連させ,イメージや考えをもって合唱表現をするための技能を身につける。

### (2) 本時の具体の評価規準と生徒の学習状況

生徒の学習状況 具体の評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる
【観点1 - 】 構成要素(音色,リズム,旋律,和声を含む音と音の関わり合い,形式)に関心を持ち,表現することに意欲的である。	構成要素の働きによる曲想の変化について,感性的側面を意識しながら工夫点を発表するなど,積極的に合唱表現に取り組んでいる	構成要素の働きによる曲想の変化について,感性的側面を意識しながら,合唱表現に取り組んでいる。
【観点2 - 】 構成要素(音色,リズム,旋律,和声を含む音と音の関わり合い,形式)の働きによる曲想の変化を感じ取って,イメージや考えを持って表現の工夫をしている。	合唱の練習に際して,構成要素の働きによる曲想の変化について感性的側面と関連させながら感じ取り,適切で具体的なイメージや考えを発表している。 (発言例) 「何かが始まっているような不思議な雰囲気を出すために音をぶつかけたり,強弱が大きくなる前にぶつけることで更に効果が大きくなるから」	合唱の練習に際して,構成要素の働きによる曲想の変化について感じ取り,自分なりのイメージや考えを発表している。 (発言例) 「音をぶつけた方が妖しい感じがするから。ぶつけた方がカッコいいから。聴いている方も歌っている方もワクワクする感じがするから」
【観点3 - 】 構成要素(音色,リズム,旋律,和声を含む音と音の関わり合い,形式)による曲想の変化を生かして合唱表現している。	練習や演奏発表の際に,構成要素の働きによる曲想の変化について感性的側面を感じながら,適切に演奏している。	練習や演奏発表の際に,構成要素の働きによる曲想の変化について感性的側面を感じながら,気をつけて一通り演奏している。

(3) 努力を要する生徒(C)への支援や手だて

【観点1 - 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成要素について、周囲の生徒とも話し合わせ、イメージを共有させる。</li> <li>・個別にアドバイスし、自信を持たせる。</li> </ul>
【観点2 - 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2度のハーモニーに着目させ聴き取らせる。</li> <li>・自分なりのイメージや直感的な感じ取りなどを大切にさせる。</li> <li>・周囲の生徒の意見を参考にして考えさせる。</li> </ul>
【観点3 - 】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じパートの生徒の声をよく聴きながら歌うように助言する。</li> </ul>

(4) 展開

時間	学習活動	留意事項, 評価	資料・ 教具等
導入 10	1 発声練習をかねた合唱をする	これまでの学習を想起させ、十分な発声をさせる  ・音程が取れていない Check ・指揮はあまり音楽表現をせず淡々と	・歌詞模造紙 ・ピアノ伴奏者への声かけ
	2 本時の学習課題を把握する		
展開 35	和声を含む音と音の関わり合いによる曲想の変化を、雰囲気、美しさといった感性的側面と関連させながら感じ取り、イメージ豊かに表現しよう。		・板書  ・HD ・教師の模範  ・教師の範唱
	3 アカペラ部分についての表現を創り上げる	歌い切れていない箇所の確認をする ・音程(パート毎に)HDで ・歌詞の発音やリズム, 入りの確認 ・伸ばしとブレスの確認 ・発声の確認	
	4 3度と2度のハーモニーの違いを感じ取る ・2度のハーモニーの演奏 ・2度のハーモニーへのイメージの発表	パート毎に取り上げ演奏させる ・7, 8小節目など ・3度のハーモニーとの比較し, 音と音がぶつかっていることを認識させる	
	5 なぜ2度のハーモニーを多用したのか考え発表する	楽曲の持つ独特の雰囲気から ・一人の考えをもとに, 全体の考えに拡げていけるようにする 観点1 - 観点2 - ・感性的側面と表現要素との関係に気づかせる ・言葉の反復と旋律の盛り上がりについて気づかせる ・8分の6拍子からの所で同じ表現要素を持つ箇所に気づかせる	
	6 まとめの合唱をする	解決できた事, 工夫できた事の確認をする 観点3 -	
終末 5	7 次時の学習内容を知る	更なる意欲付けを図る ・次回までの課題の確認	